

2020年11月9日

2021年3月期（2020年度）第2四半期連結決算電話会議 内容説明スクリプト

I. 全体の概要説明

それでは、本日発表いたしました当社2021年3月期第2四半期連結決算の概要についてご説明します。決算短信の表紙サマリーをご覧ください。

1. 2021年3月期第2四半期連結決算 業績概要

1) 当年度第2四半期連結経営成績

当年度第2四半期の連結経営成績は、前年同期比で減収、減益となりました。

- ① 売上高 4,191億円 前年同期比 33億円の減収
(売上総利益 562億円 前年同期比 14億円の増益)
- ② 税引前利益 259億円 前年同期比 105億円の減益
- ③ 親会社の所有者に帰属する四半期利益 175億円 前年同期比 119億円の減益
となりました。

2) 全般概況

ここからは、当年度第2四半期連結決算の全般概況をご説明いたします。決算短信の表紙サマリーまたは決算補足説明資料の1ページ上段をご覧ください。

[第2四半期連結決算 業績概況 前年同期比較]

① 当年度第2四半期の金属価格の状況

銅およびニッケル価格については、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け前年度末にかけ大幅に下落しましたが、当年度第2四半期連結累計期間では中国経済が回復しつつあることなどを背景に上昇基調で推移しました。金価格は当該感染症の影響による世界経済の先行き不透明感により上昇基調で推移しました。この結果、銅およびニッケル価格は、回復基調ではあるものの平均価格では前年同期間を下回り、金価格は前年同期間を上回りました。

② 当年度第2四半期の連結税引前利益の状況

当年度第2四半期連結累計期間では前述の金属価格の環境下、相場要因で金価格上昇による+42億円や在庫評価益が+22億円と好転したものの、銅価格の大幅下落により▲120億円、ニッケル価格も下落で▲31億円となり、相場要因全体で▲102億円と悪化しました。加えて、ケブラダ・ブランカ銅鉱山フェーズ2（QB2）プロジェクトにおける建設中断コストの計上▲39億円、その他の為替差損益▲20億円、材料事業の減益▲3億円等の悪化要因があります。一方、シエラゴルド銅鉱山等によるコスト差+56億円、数量差は+13億円となったものの、全体としては相場要因を中心に悪化したことで、連結税引前利益は前年同期比 105億円減益の 259億円となりました。

3) トピックス

ここからは、当年度第2四半期連結決算における各トピックスについて概況をご説明します。

① 海外銅鉱山

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う国家非常事態宣言を受けて3~5月に保安操業を実施したセロ・ベルデを除く各鉱山の当年度第2四半期の生産量は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が軽微であったことにより、前年同期比好転ないしは前年同期並となりました。一方で当期の各鉱山の損益は銅価格下落の影響等を中心に前年同期比で大きな減益となりました。

モレンシー

当年度第2四半期の生産量は引き続きリーチング操業が好調で、高水準のカソード生産が継続していることから、前年同期比7千トン増加の226千トンとなりました。一方、売上総利益は銅価格の下落により悪化し前年同期比で減益となりました。

シエラゴルダ

安定操業の継続と銅品位向上等により鉱石処理量が増加したことで、当期の生産量は前年同期比18千トン増加の71千トンとなりました。一方、当期の持分法投資損益はコスト差が好転したものの銅価格下落等が影響し前年同期比15億円減益の▲61億円となりました。

セロ・ベルデ

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う国家非常事態宣言を受けて3月中旬から5月中旬まで保安操業を実施したことにより、当期の生産量は前年同期比53千トン減少の173千トンとなりました。当期の持分法投資損益も、減産に加え銅価格の下落による影響で、前年同期比58億円減益の3億円となりました。

② THPAL (タガニート HPAL)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い予定休転期間が一部長期化したものの、以降は順調な操業を継続したことに加え、9月休転実施予定のところ下期へのずれ込みが発生したことから、当期の生産量は前年同期比0.8千トン増加の16.7千トンとなりました。

③ CBNC (コーラルベイ)

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は軽微であり、順調な操業を継続したことにより当期の生産量は前年同期比0.1千トン増加の10.0千トンとなりました。

2. 2021年3月期 連結業績予想

1) 通期連結業績予想の概況

本年8月の2021年3月期第1四半期の決算発表において通期の連結業績予想を開示しましたが、今回は年度累計業績予想の見直しを行いました。

決算短信 表紙サマリー下段、決算短信 添付資料5ページならびに決算補足説明資料の5-6ページをご覧ください。

通期連結業績は、

- ① 通期売上高 8,580億円 8月通期予想比 230億円の増収
- ② 税引前利益 670億円 8月通期予想比 190億円の増益
- ③ 親会社の所有者に帰属する四半期利益は460億円 8月通期予想比 140億円の増益

と予想しています。

業績予想の前提となる金属価格および為替は、決算短信 添付資料 5 ページならびに決算補足説明資料の 1 ページ下段に記載のとおり、第 3 四半期以降の前提は、ワールドワイドの需給動向等を踏まえ、銅 \$6,300/t、金 \$1,900/toz、ニッケル \$6.25/lb、コバルト \$14.5/lb、為替は 104 円/\$ としました。

今回見直した通期の連結税引前利益は、予想算定の際の前提となる与件において、為替円高の悪化を除き全ての金属価格の上昇を見込むことから、8月通期予想比較で為替差は▲16億円も、価格・条件差は+158億円となり、在庫評価も+6億円と相場要因全体で+148億円の好転を見込みます。その他の要因として、その他の為替差▲22億円、数量差悪化で▲7億円の悪化要因がある一方で、材料事業の増益+30億円、コスト差+11億円、一過性の要因として8月通期予想に織り込んだQB2プロジェクトの建設中断コスト好転+10億円の増益要因が上回ることから、通期の連結税引前利益は8月通期予想比190億円増益となる 670億円と予想しています。

2) トピックス

ここからは、通期連結業績予想における各トピックスについて概況をご説明します。

① 海外銅鉱山

鉱石の硬さ等による鉱石処理量減少等で減産となったカンデラリア（ストライキ要因は含まず）を除く各鉱山の当年度通期の生産量は、概ね前年度並みないしは8月通期予想比増加を見込みます。また、カンデラリアを除き当年度の各鉱山の損益は銅価格上昇の影響等を中心に8月通期予想比増益を見込んでいます。

モレンシー

高水準のカソード生産の継続により、通期の生産量の見込みは、8月通期予想比で21千トン増加の451千トンを見込みます。

一方、販売量の見込みは一部の販売のずれ込みによる影響で、8月通期予想比で4千トン減少の459千トンを見込みます。

通年の売上総利益は、銅価格の上昇に加えコスト差の好転による影響が大きく、8月通期予想比で大幅な増益を見込みます。

シエラゴルダ

安定操業と高い銅品位により鉱石処理量は高水準が継続することで、当期の生産量は8月通期予想比1千トン増加の145千トンを見込みます。当期の持分法投資損益は銅価格の上昇により8月通期予想比5億円増益の▲75億円を見込みます。

セロ・ベルデ

保安操業実施後に操業のランプアップを進めたことにより、鉱石処理量は前年度の90%程度まで回復、通期の生産量は8月通期予想比9千トン増加の368千トンを見込みます。当年度の持分法投資損益も、増産に加え銅価格の上昇による影響で8月通期予想比5億円増益の25億円を見込みます。

② THPAL

前述の通り、9月実施予定の休転が下期にずれ込みましたが、来年実施予定の休転も4月にずれ込む予定であり、通期の生産量は8月通期予想比1.7千トン増加の32.7千トンを見込みます。一方、販売量の見込みは、8月通期予想比で2.5千トン減少の31.4千トンを見込みます。

③ CBNC

当年度の生産量は8月通年予想比1.2千トン減少の20.3千トンを見込みます。また、販売量の見込みも8月通期予想比で2.8千トン減少の18.7千トンを見込みます。

3. 配当

配当についてご説明いたします。

決算短信 サマリー表紙下段および本日公表しました「業績予想および配当予想の修正等に関するお知らせ」をご覧ください。

今回、通期業績予想を修正したことにより、配当予想を見直しました。前回8月時点予想に比べまして、中間配当を12円引き上げ、22円/株といたします。また、期末の配当予想についても前回8月時点予想から6円引き上げ、期末37円/株といたします。この結果、年間配当金は前回8月時点予想比で計18円増配の59円/株、配当性向は35.2%となる予定です。

II. 売上総利益、セグメント利益の内訳他の詳細

それでは、2021年3月期第2四半期決算「補足説明資料」をご覧ください。

1. 1 ページ目「決算・予想比較」について

1) 2020年度第2四半期累計決算 vs 2019年度第2四半期累計決算

上段の表が当年度第2四半期累計決算の前年同期比較です。増減①-②を中心にご覧下さい。

金属価格と為替につきましては、その表の下段に記載のとおりです。

銅は\$5,931/tで、前年同期比▲\$25の下落となりました。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け前年度末にかけては下落しましたが、当年度第2四半期連結累計期間は、中国経済が回復しつつあることなどを背景に上昇基調で推移しました。この結果、回復基調ではあるものの平均価格では前年同期間を下回りました。足元は新型コロナウイルス感染症拡大前の水準を大きく越え、\$6,900台まで上昇しています。

ニッケルは\$5.99/lbで、前年同期比▲\$0.33の下落となりました。銅と同様に、当年度第2四半期連結累計期間は、中国経済が回復しつつあることなどを背景に上昇基調で推移しましたが、平均価格では前年同期間を下回りました。足元は\$7前後で推移しています（直近LME+SHFE在庫は、268千トン）。

金は\$1,811/tozで、前年同期比+\$419の大幅な上昇となりました。当年度第2四半期累計期間は、新型コロナウイルス感染症の影響による世界経済の先行き不透明感により上昇基調となり、平均価格は前年同期を大きく上回りました。特に7月以降は安全資産として資金の流入を受けて急激に上昇し、高値で推移しました。足元は\$1,900/toz台で推移しています。

コバルトは\$14.84/lbで、前年同期比▲0.18\$の下落となりました。当年度第2四半期累計期間はやや軟調な値動きとなり、平均価格は前年同期を下回りました。直近11月6日メタルブリテンのStandard-Lowで\$15.50/lbとなっています。

為替の平均レートは106円92銭と前年同期比1円71銭の円高となりました。当年度第2四半期累計期間は、欧米などでの新型コロナウイルス感染症再拡大への懸念に加え、米中対立の深刻化や米国の追加経済対策の動向などから円高ドル安傾向で推移したことで、平均為替レートは前年同期比で円高となりました。足元は104円前後で推移しています。

次に業績についてですが、当年度第2四半期の売上高は4,191億円で前年同期比▲33億円の減収、税引前利益は259億円となり、前年同期比▲105億円の減益となりました。

その増減分析は、表の脚注に記載の通り、相場要因による影響が▲102億円です。このうち、価格・条件差で▲114億円、うち、銅で▲120億円、ニッケルで▲31億円、コバルトで▲7億円、金で+42億円、等となっており、銅の価格下落のマイナス影響が大半となっています。為替差は▲10億円、在庫評価は前年同期比で+22億円となりました。

数量差では+13億円の好転です。順調な操業を継続している菱刈鉱山や、THPALで前年同期比増販となったことが主な要因です。その他の為替差損益については、円高により▲20億円の悪化、コスト差については、順調な操業を継続し前年同期比増産となったシエラゴルダやモレンシーなどで単位当たりコストの好転があったことから+56億円の好転となりました。

材料事業は、前年同期比▲3億円の減益となりました。粉体材料や結晶材料等で前年同期比増販となったものの、電池材料等で新型コロナウイルス感染症の拡大による需要低迷を受けて減販となったことなどが主な要因です。

その他特殊要因としては、QB2プロジェクトの建設中断コスト計上▲39億円の一時的な減益要因がありました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて建設中断した期間の発生コストを、前回8月予想で見込んでいた通り期間費用として計上したことによるものです。

2) 2020年度第2四半期決算 vs 2020年度第2四半期業績予想(8月)

続いて、同じ表の右端増減①-③が、当年度第2四半期累計決算の8月予想との比較です。

金属価格につきましては、銅、ニッケル、金、コバルトの全てが8月予想比で上昇しました。為替の平均レートは8月予想比39銭の円高となりました。

税引前利益は8月予想比+119億円の好転となりました。

その増減分析は、表の脚注に記載の通り、相場要因による影響がプラス87億円です。このうち価格・条件差で+55億円、その中では銅価格・ニッケル価格の上昇による影響がそれぞれ+17億円、+28億円等と大きくなっています。在庫評価は+32億円となりました。数量差では菱刈鉱山で順調な操業を継続しているものの8月予想比で見ると減販となったことなどにより▲32億円、コスト差では8月予想比で増産となったTHPALなどで好転し+10億円の好転となっています。材料事業は、電池材料他で8月予想比増販となったことや在庫評価損益の好転などにより+45億円の増益となりました。

3) 2020年度通期業績予想(11月予想) vs (8月予想)

続いて、今回見直した2020年度の通期業績予想と前回8月通期予想との差異につきましては、1ページ目下段の表をご覧ください。

業績予想の前提とした金属価格および為替与件をその表の下段に記載しています。②の欄、2020年度第3四半期および第4四半期として、銅は\$6,300/t、ニッケルは\$6.25/lb、金は

\$1,900/Toz、コバルトは\$14.5/lb、為替については104円/\$を前提としています。この結果、③の欄、11月公表2020年度通期業績予想においては、銅は\$6,116/t、ニッケルは\$6.12/lb、金は\$1,856/Toz、コバルトは\$14.67/lb、為替については105.46円/\$を前提としています。

前回8月通期予想値と比較しますと、銅が\$5,835から+\$281、ニッケルが\$5.88から+\$0.24、金は\$1,778から+\$78、コバルトが\$13.87から+\$0.8、それぞれ引き上げています。為替については、107.16円から1円70銭円高となる前提としています。

この前提のもと、2020年度の通期業績予想は増減③-④の通り、売上高は8,580億円で8月予想比+230億円の増収、売上総利益は8月予想比+150億円増益の1,210億円、税引前利益は8月予想比+190億円の増益となる670億円と予想しています。その増減分析は、表の脚注に記載の通りです。

まず、相場要因による影響が+148億円です。このうち、価格・条件差で+158億円の好転、うち、銅で+92億円、ニッケルで+40億円、コバルトで+17億円、金で+11億円などとなっています。為替差は▲16億円の悪化、在庫評価は+6億円の好転を見込んでいます。

数量差は▲7億円の悪化を見込んでいます。電気ニッケルで8月予想比減販となったことなどが主な要因です。その他の為替差損益については円高により▲22億円の悪化、コスト差については+11億円の好転を見込んでいます。8月予想比増産のモレンシーで単位当たりコストの好転を見込んでいることなどが主な要因です。材料事業では電池材料、粉体材料などで8月予想比増販となることなどから+30億円の増益・好転を見込んでいます。

その他特殊要因として、QB2プロジェクトの建設中断にかかる発生コストの期間費用としての計上額が、8月予想で見込んでいた80億円から10億円減少することによる好転を見込んでいます。

4) 2020年度第3+第4四半期業績予想(11月予想) vs 2020年度第2四半期決算

次に、今回見直した業績予想の第3+第4四半期と第2四半期累計決算、つまり2020年度の下期予想と上期実績との比較です。同じ表の右端増減②-①をご覧ください。

金属価格および為替の下期予想における与件と上期実績を比較しますと、下期予想は上期実績に対して、銅は+\$369、ニッケルは+\$0.26、金は+\$89の上昇、コバルトは▲\$0.34の下落、為替は2円92銭円高となります。

また、下期予想は上期実績に対して、売上高は+198億円、売上総利益は+86億円、税引前利益は+152億円の増収・増益と予想しています。税引前利益+152億円増益の増減分析は、1ページ目一番下の脚注に記載の通りです。

相場要因による影響は+75億円で、このうち価格・条件差では+151億円の好転です。主要なものとしては、価格・条件差では銅価格の上昇による影響が+173億円の好転と大きく、為替差は▲25億円、在庫評価は▲51億円の悪化となっています。また、コスト差はシエラゴルダ、モレンシーなどでの好転により+55億円の好転となっています。なお、前述のQB2プロジェクトの建設中断コストは8億円の減少を見込んでいます。

2. 3ページ セグメント別対前年同期実績比較(売上総利益増減)

それでは、3ページをご覧ください。当年度第2四半期累計決算のセグメント別前年同期比較です。

まず、左上の表の【資源セグメント】の売上総利益は、216億円と+23億円の増益となりました。

た。

同じページの中段以下に売上総利益の増減説明を記載しております。菱刈鉱山は、前年同期比+61億円の好転となりました。販売量が3.1トンと前年同期比0.4トンの増販となったことから、数量差で+14億円の好転、また、金価格上昇により価格差で+41億円の好転となりました。

一方、海外銅鉱山、内訳としてはモレンシーとノースパークスで大半がモレンシーですが、こちらは前年同期比▲39億円の悪化となりました。数量差で+5億円、コスト単価差で+8億円好転しましたが、銅価の下落により価格差で▲46億円の悪化となりました。

次に、【製錬セグメント】の売上総利益は、257億円と前年同期比+11億円の増益となりました。

その内訳は下段の表の通り、銅系で+68億円好転、ニッケル系で▲55億円悪化しています。

銅系+68億円の好転の主な内訳は、数量差で+2億円、条件差+3億円、在庫評価で+43億円、その他で+23億円の好転となりました。その他のうち為替による影響は▲2億円となっています。

ニッケル系▲55億円の悪化の主な内訳は、数量差はTHPALの前年同期比増販などにより+19億円の好転、条件差はニッケル価格下落の影響により▲41億円の悪化となりました。在庫評価は▲21億円の悪化、その他は▲15億円の悪化となりました。その他のうち、為替による影響は▲5億円となっています。

3. 4 ページ セグメント別対前年実績比較 (材料事業の製品群別売上高)

それでは、4ページに移りまして上段、当年度第2四半期累計決算の材料事業・製品群別売上高の前年同期比較です。

材料事業全体の売上高は、1,071億円となり前年同期比で▲21億円の減収となりました。

電池材料の売上高は、減販により前年同期比▲72億円減収の529億円となりました。粉体材料は増販により+33億円増収の168億円となりました。パッケージ材料は▲11億円減収の78億円となりました。結晶その他の事業は、+29億円増収となる296億円となりました。

3ページ材料セグメントの売上総利益は、前年同期比▲9億円の減益となる95億円、セグメント損益は前年同期比▲3億円の減益となる25億円となりました。

4. 4 ページ セグメント別対前年実績比較 (持分法投資損益)

次に、4ページ下の表 持分法投資損益について説明します。

持分法投資損益全体では、前年同期比▲89億円の減益となる▲44億円となりました。

減益の要因として大きなものは銅系です。銅価格下落の影響などにより、▲80億円の減益となる▲43億円となりました。

銅系のうち、セロ・ベルデは、保安操業実施の影響で前年同期比減産・減販となり、さらに銅価格下落によって前年同期比▲58億円の減益となる3億円となりました。カンデラリアとオホスは、カンデラリアが前年同期比増産・増販となりましたが、銅価格下落の影響により▲3億円の減益となる9億円となりました。シエラゴールドは、操業の改善・安定化に伴い増産・増販となりましたが、銅価格下落の影響等により▲15億円の減益となる▲61億円となりました。アシツズ他については▲4億円の減益となる6億円、PTVIなどニッケル系については+13億円増益の10億円となりました。エヌ・イーケムキャット他については、▲22億円の減益となる▲11億円となりました。

5. 4 ページ 金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減

持分法投資損益の下に、「金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減」の主なものを記載しておりますが、上述の為替の影響額のみであり、特殊な要因等はありませんので、説明は割愛いたします。

6. 5 ページ 2020 年度通期業績予想比較 セグメント別（11 月予想）vs（8 月予想）

それでは 5 ページをご覧ください。

今回見直した 2020 年度の通期業績予想と前回 8 月通期予想とのセグメント別比較です。業績予想の数値は 10 億円単位の丸め数字で記載しています。

まず、一番上の表の売上総利益について、年度①および増減①-②を中心にご覧ください。

【資源セグメント】の売上総利益は 550 億円と 8 月予想比+90 億円の増益となる予想です。同じページの中段以下に売上総利益の増減説明を記載しています。

菱刈鉱山は、年間 6 トンの生産・販売に変更はありません。金価格上昇の影響により価格差で +14 億円好転し、+11 億円の増益となる予想です。

海外銅鉱山は、前述の通り大半がモレンシーですが、銅価格上昇による価格差+37 億円の好転、8 月予想比増産やコスト削減などによるコスト単価差+38 億円の好転などにより、+73 億円の増益となる予想です

次に、【製錬セグメント】の売上総利益は 450 億円と 8 月予想比+10 億円の増益となる予想です。

その内訳は下段の表の通り、銅系+26 億円、ニッケル系+26 億円の好転とその他グループ会社間取引のセグメント消去など▲42 億円を含め、合計で+10 億円の増益と見込んでいます。

銅系+26 億円の主な内訳は、数量差で▲3 億円、条件差で▲2 億円、コスト単価差で▲3 億円の悪化となる一方で、在庫評価で+25 億円、その他で+9 億円の好転と予想しています。その他+9 億円のうち、為替差は▲2 億円です。

ニッケル系+26 億円の主な内訳は、電気ニッケル・CBNC 等の 8 月予想比減産・減販により数量差で▲11 億円、コスト単価差で▲6 億円、また、在庫評価で▲18 億円、その他で▲2 億円の悪化となる一方で、ニッケルおよびコバルト価格上昇の影響により条件差は+63 億円の好転と予想しています。その他▲2 億円のうち、為替差は▲6 億円です。

7. 6 ページ 2020 年度通期業績予想比較 セグメント別（材料事業の製品群別売上高）

6 ページ上段、材料事業の製品群別売上高の予想比較について説明します。

材料事業全体の売上高は、2,280 億円で 8 月予想比+50 億円の増収と予想しています。

通期売上高について、電池材料は、第 2 四半期まで生産・販売ともに大きく減少しましたが、足元は需要が回復してきており、8 月予想比+20 億円の増収となる 1,150 億円と予想しています。粉体材料は、関連製品毎に濃淡はあるものの徐々に市況回復・需要増加基調となってきたことから、8 月予想比+20 億円の増収となる 350 億円と予想しています。結晶、その他の事業は、第 2 四半期を底としてスマホ需要に緩やかな回復の兆しが出てきていること等から、8 月予想比+10 億円増収となる 620 億円と予想しています。パッケージ材料は 8 月予想と同額の 160 億円と予想しています。

5 ページ材料セグメントの売上総利益は、8 月予想比+20 億円の増益となる 200 億円、セグメント損益は 8 月予想比+30 億円の増益となる 50 億円と予想しています。

8. 6 ページ 2020 年度通期業績予想比較 セグメント別（持分法投資損益）

下段の持分法投資損益の予想比較について説明します。ここでは、5 億円刻みの丸め数字として表示しています。

持分法投資損益全体では、8 月予想と同額の▲40 億円と予想しています。

銅系は 8 月予想と同額の▲25 億円となりました。

セロ・ベルデは主に銅価格上昇の影響などにより 8 月予想比+5 億円増益の 25 億円となる予想です。シエラゴルダも同様の理由により 8 月予想比+5 億円増益の▲75 億円となる予想です。カンデラリアとオホスは、カンデラリアで 8 月予想比減産・減販（ストライキ要因は含まず）を見込むことから▲10 億円減益の 15 億円となる予想です。

エヌ・イーケムキャット他の部分については、前回予想比+5 億円増益の▲45 億円となる予想です。なお、この中には、前述の QB2 プロジェクトを進めているケブラダ・ブランカ銅鉱山の持分法投資損益を含んでいます。

9. 6 ページ 金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減

金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減につきましては、上述の為替の影響額のみであり、特殊な要因等はありませんので、説明は割愛いたします。

10. 9 ページ 財務状況（キャッシュフロー）について

最後に、9 ページの財務状況のうち、下段にありますキャッシュフローについて説明します。

期首の現金及び現金同等物は 1,555 億円でした。営業活動によるキャッシュフローは 516 億円の収入、投資活動によるキャッシュフローは 384 億円の支出となり、当年度第 2 四半期累計期間のフリーキャッシュフローはプラス 132 億円となりました。さらに財務活動によるキャッシュフローは 288 億円の支出となったことから、当年度第 2 四半期末の現金及び現金同等物は、換算差額を含めて 182 億円減少し、1,373 億円となりました。

以上